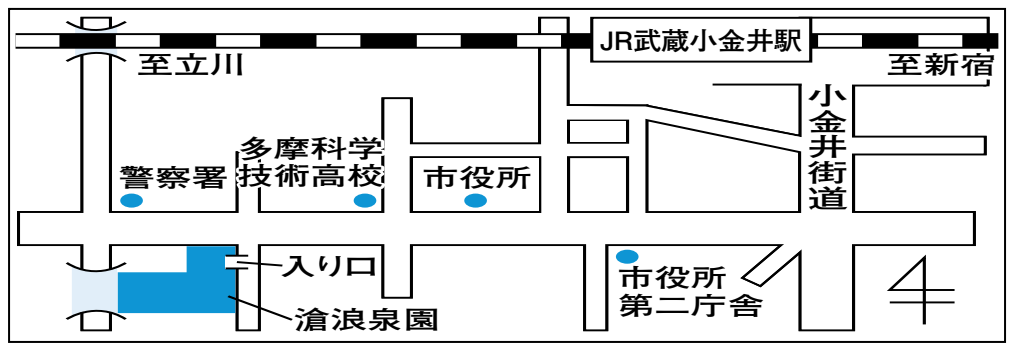
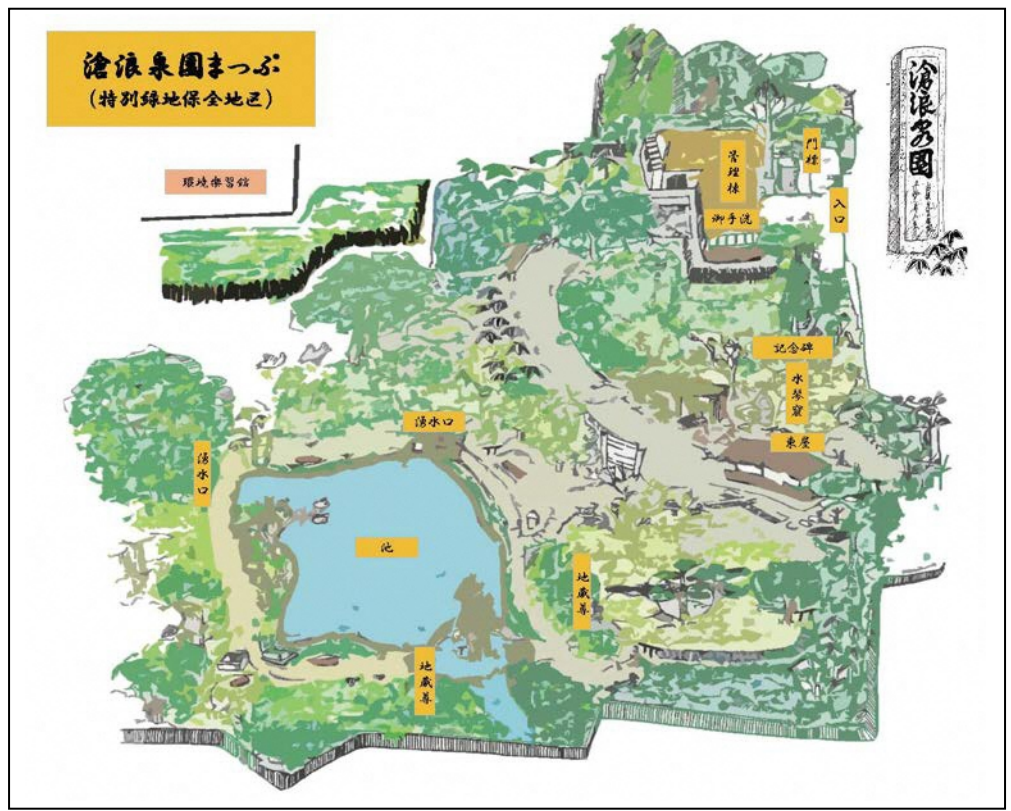


# 滄浪泉園



- 入園料…大人(15歳以上) 100円  
子供(6歳以上)、60歳以上・障がい者とその付添人 50円
- 開園時間…午前9時～午後5時(入園は午後4時半まで)
- 休園日…毎週火曜日及び年末年始(12/28～1/4)  
(火曜日が祝日に当たる場合は、翌日。また火曜日を含め祝日が連続する場合は祝日終了の翌日(平日))
- 無料公開日…10月1日
- 所在地…小金井市貫井南町三丁目2番28号
- 交通…中央線武蔵小金井駅南口下車、徒歩15分  
又は、京王バス東府中駅行き「小金井警察署前」下車、徒歩1分
- 敷地面積…12,479.99平方メートル
- 問合せ…滄浪泉園管理事務所：電話(042)385-2644  
小金井市環境部環境政策課緑と公園係：電話(042)387-9860
- ご注意…特別緑地保全地区の保全のため、園内の飲食・喫煙はできません。  
専用の駐車場はございませんので、公共交通機関又は近隣の民間駐車場を御利用ください。



紙資源の節約のため、電子パンフレットをご利用いただける方は、こちらからダウンロードください。

# 深山の趣 そのままの庭園

滄浪泉園は、明治・大正期に三井銀行などの役員、外交官、衆議院議員などを歴任活躍した波多野承五郎により、武蔵野の特徴的な地形である「はけ」とその湧水を巧みに取り入れて整備された庭園を持つ別荘として利用されてきました。

その名の由来は、大正八年、この庭で遊んだ犬養毅元首相によって、友人波多野承五郎のために名付けられたもので「手や足を洗い、口をそそぎ、俗塵に汚れた心を洗い清める、清々と豊かな水の湧き出る泉のある庭」との深い意味を持っています。

入口付近の石の門標は、犬養毅自らの筆によるもので、波多野氏の雅遊の友であった篆刻家足立壻頓によって刻まれた、萬成と呼ばれる大きな赤御影石が使われています。

昭和に入ってから、三井鉱山の役員であった川島氏の手に移り、茅葺の大きな家や長屋門などが風雅なたたずまいを見せていますが、昭和52年に買収される直前、残念ながら取り壊されてしまいました。



水面に映る新緑



当初、三万三千平方メートル余りあったといわれる庭園も、次々に宅地化の波にのまれ今では三分の一程になってしまいました。約一万二千平方メートルの園内は今でも武蔵野の面影を十分とどめ、うっそうと茂る樹林内では、コゲラ、アオゲラ、メジロ、キジバト、ウグイス等、野鳥の鳴声が一年中絶えることなく、また今なおこんこんと湧く清水をたたえた池にはカモやカワセミも飛来し、コジュケイの親子連れが笹をかき分け過ぎるなどほほえましい光景も見られます。



水琴窟



「東京の名湧水 57 選」に選定されました。

## 滄浪泉園の自然

滄浪泉園は、古代多摩川が、次第に南西に移っていく途中でできた、最も古い段丘の一つに位置しており、この斜面は地形学上、国分寺崖線と呼ばれ、立川市の北東から世田谷区の野毛まで続いています。崖下の砂礫層からは豊かな地下水が湧き出て、それを一般に「はけ」と呼んでおり、長い間人手が加えられていなかったため、今では崖上、斜面、低地、水辺とそれぞれに植物がすみわけて安定した生態系を構成しています。これらの植物は、「はけ」の崩壊を防ぐとともに多くの生物の棲息を可能にしています。そして木の実や虫を求め、四季を通してたくさんの野鳥も集まっています。

また滄浪泉園内には、煙や大気汚染を嫌う杉、赤松（推定樹齢100〜130年）等が数多く残り、一部には関東ローム層（所謂赤土）の地、独特の風情である二段林の特徴も見られ、今ではこの近辺では見られなくなった、ニリンソウなどの野草も残っていることは貴重な自然といえます。

## 滄浪泉園の保全にあたって

滄浪泉園は、小金井の歴史と共に歩んできた「はけと湧水」を巧みに生かした由緒ある緑地として知られており、存在が危ぶまれたこともありましたが、多くの市民のみなさんの要望が実現し、昭和52年、東京都の御理解・御協力のもとに緑地保全地区の指定・買収を受け、装いあらたに自然緑地として末長く都民の財産として残していくことが出来ました。現在は、約1.3ヘクタールが特別緑地保全地区に指定、拡大され、貴重な自然環境を守ることが出来ました。

小金井市を訪れたみなさんの印象は、みどりのまち、静かなまちなど武蔵野の面影を心の中に描く方が多いのではないかと思います。

滄浪泉園は、このようなみどり濃い小金井のまちを象徴する森として、あとに続く世代に自然の尊さを語り継ぐいしづみになることを期待し保全、開園されたものです。

滄浪泉園を訪れましたみなさんには、この自然が生み出した貴重な森を大切にされ、みどり豊かな潤いのあるまちづくりのため御協力くださるようお願いいたします。